

世界視野 外国人学ぶ

松本秀峰 留学生招き講演会

松本市埋橋2の松本秀峰中等教育学校は4日、信州大学人文学部の留学生2人を招き講演会を開いた。1年生84人を前に、スリランカ出身のディヌーシャ・ティランガニ・ランブクピティヤさん(34)と中国出身の劉一凡さん(21)が、東日本大震災について思うことや、日本について感じたことなどを話した。

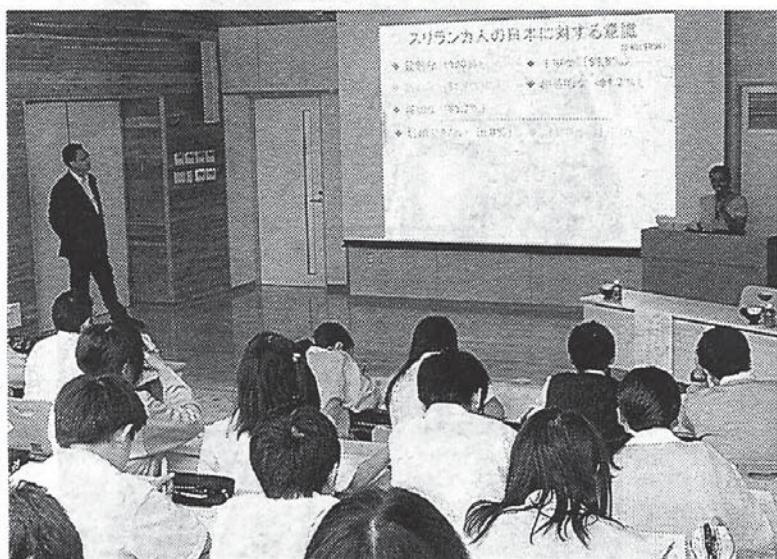
ランブクピティヤさんは「勤勉で創造的な仕事をする」など、日本人を持つ印象を話した。劉さんは東日本大

震災時の日本人の対応から「冷静で秩序を守なが驚いた」と語り、

る民族だと中国人みなが驚いた」と語り、

中国でも義援金の募金活動が広く行われたことを紹介した。

人文学部との「教育協定」の一環で開かれた。松田廉君(12)は「中国について反日デモなどの一面しか見ていなかった。多方面から中国を学んでいきたい」と意欲を示し、菱田智晴教頭は「常に世界を見据えて学校生活を送ってほしい」と話していた。(片岡 望)



留学生が日本の印象などを話した講演会